

こんにやく喫食経験者のうち、「こんにやくが好き」と感じている人の比率は アメリカで 8 割、フランスで 6 割以上に

一般財団法人日本こんにやく協会（所在地：東京都千代田区神田錦町、理事長：清水 秀樹）は、アメリカとフランスにおけるこんにやくの消費実態を調査した。

調査の背景

一般財団法人日本こんにやく協会では、2024 年度に日本国内においてこんにやく製品を製造販売する幅広い事業者を対象に、輸出実績に関するアンケート調査を実施し、輸出実態を明らかにした^{*1}。当該調査結果によると、日本からのこんにやく製品の輸出先は多い順にアメリカ、香港、シンガポール、台湾、フランス、イギリスとなった。2025 年度は、これらの国・地域の中でも、国際的な価格競争を踏まえた上で日本製の高品質なこんにやく製品の消費増加が見込めるアメリカとフランスに絞り、インターネット消費調査を実施した。

この調査は、2025 年 5 月～8 月において、アメリカ（西海岸地域：カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州）^{*2}およびフランス（海外県を除く）に居住する 20 歳以上 69 歳までの男女で、アメリカまたはフランスの国籍を保有する者を対象に実施した（各設問共通）。

*1 2024 年 9 月 25 日発表の一般財団法人日本こんにやく協会プレスリリースを参照

*2 アメリカはこんにやくの輸出実績が多い西側 3 州（カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州）を対象にした。

「アメリカ・フランスにおけるこんにやくの消費実態調査」の結果概要

■こんにやく麺、糸こんにやく（しらたき）、板こんにやくの喫食経験が高い傾向

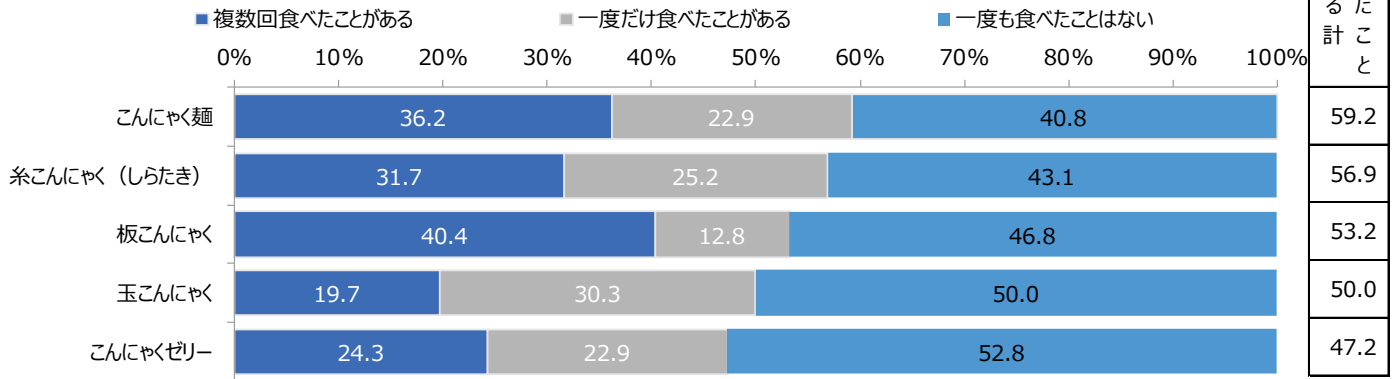
板こんにやく、糸こんにやく（しらたき）、玉こんにやく、こんにやく麺、こんにやくゼリーのそれぞれについて、喫食経験の有無（単数回答）を調査した。

アメリカで食べたことがある計（「複数回食べたことがある」「一度だけ食べたことがある」の合計）の比率が最も高かったのは「こんにやく麺」（59.2%）で、「糸こんにやく（しらたき）」（56.9%）、「板こんにやく」（53.2%）と続いた。複数回食べたことがある人の比率が最も高かったのは「板こんにやく」（40.4%）で、「こんにやく麺」（36.2%）も高かった。「玉こんにやく」以外は、「複数回食べたことがある」の比率が「一度だけ食べたことがある」を上回っており、リピーターが一定数ついていることがうかがえる。

フランスは、全体的に「一度も食べたことはない」の比率が 7～8 割と高かった。食べたことがある計の比率が最も高かったのは、「こんにやく麺」（27.5%）で、「糸こんにやく（しらたき）」（25.4%）がそれに続いた。「複数回食べたことがある」の比率が「一度だけ食べたことがある」の比率を上回ったのは、「こんにやく麺」、「糸こんにやく（しらたき）」、「板こんにやく」だった。（グラフは次ページ）

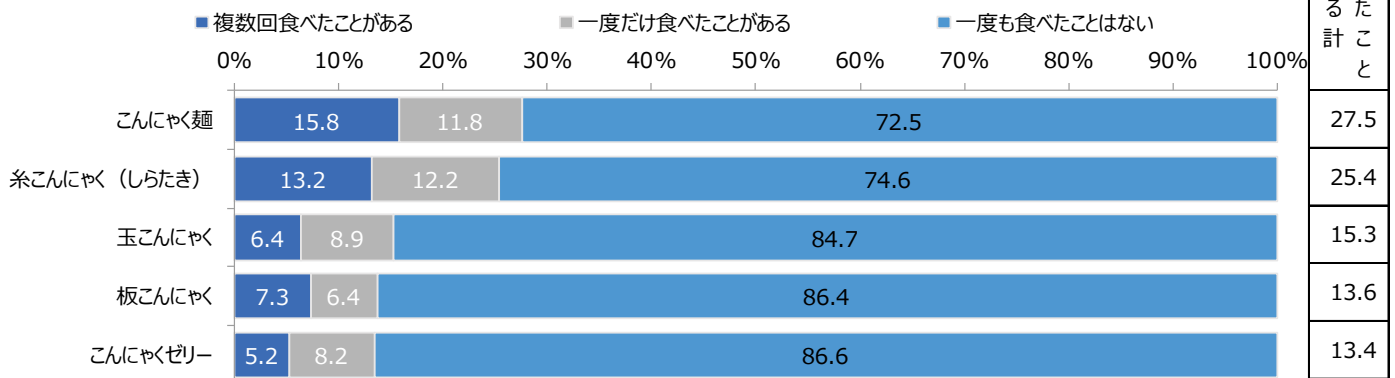
各こんにゃくの喫食経験（アメリカ）

(n=218)



各こんにゃくの喫食経験（フランス）

(n=425)



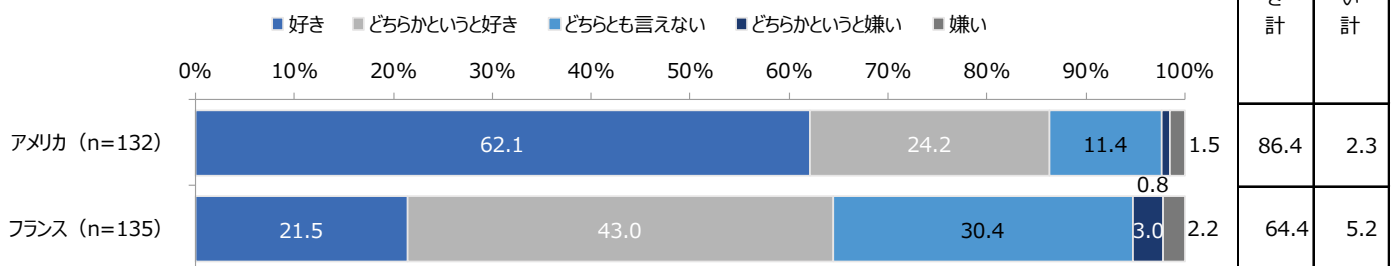
*回答条件は「調査要綱」を参照。

*四捨五入により、各系列の合計値が完全一致しない場合がある。

■アメリカで8割、フランスで6割以上が「こんにゃくが好き・やや好き」と回答

こんにゃくの喫食経験がある人^{*3}に対して、こんにゃくの嗜好程度（好き・嫌い）を調査した（単数回答）。その結果、アメリカでは86.4%、フランスでは64.4%が「好き」または「どちらかという好き」と回答した。

こんにゃくの嗜好程度

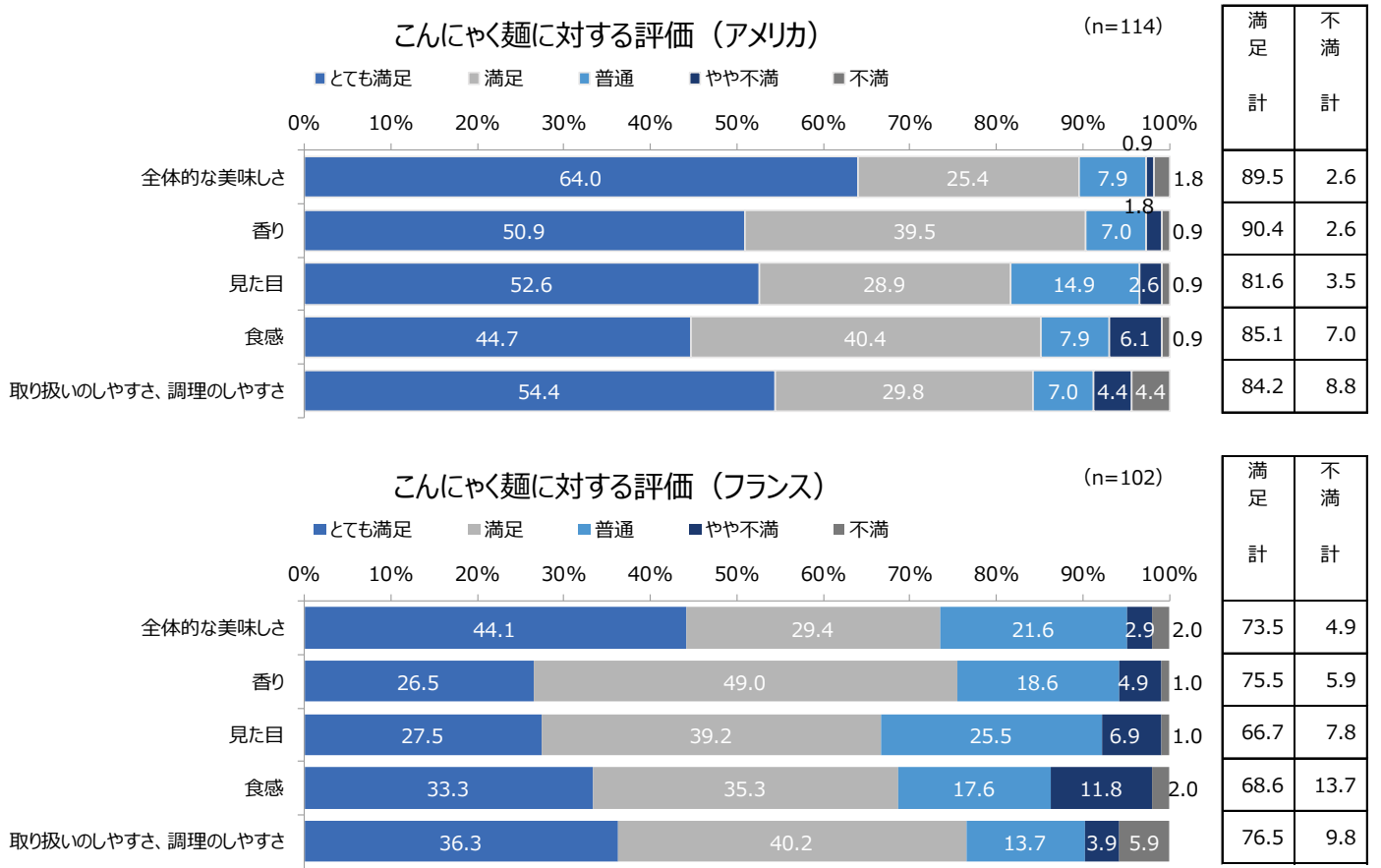


*3 回答条件：こんにゃくゼリーを除く、板こんにゃく、糸こんにゃく（しらたき）、玉こんにゃく、こんにゃく麺のいずれかの喫食経験がある男女（アメリカ132名、フランス135名）、その他の回答条件は「調査要綱」を参照。

■アメリカでは約 9 割、フランスでは約 7 割がこんにゃく麺に満足

アメリカおよびフランスにおいて、喫食経験者が最も多かったこんにゃく麺に対する評価（各項目で単数回答）を調査した^{*4}。

満足計（「とても満足」「満足」の合計）の比率によると、「全体的な美味しさ」はアメリカで 89.5%、フランスで 73.5%となり、満足度の高さがうかがえる。

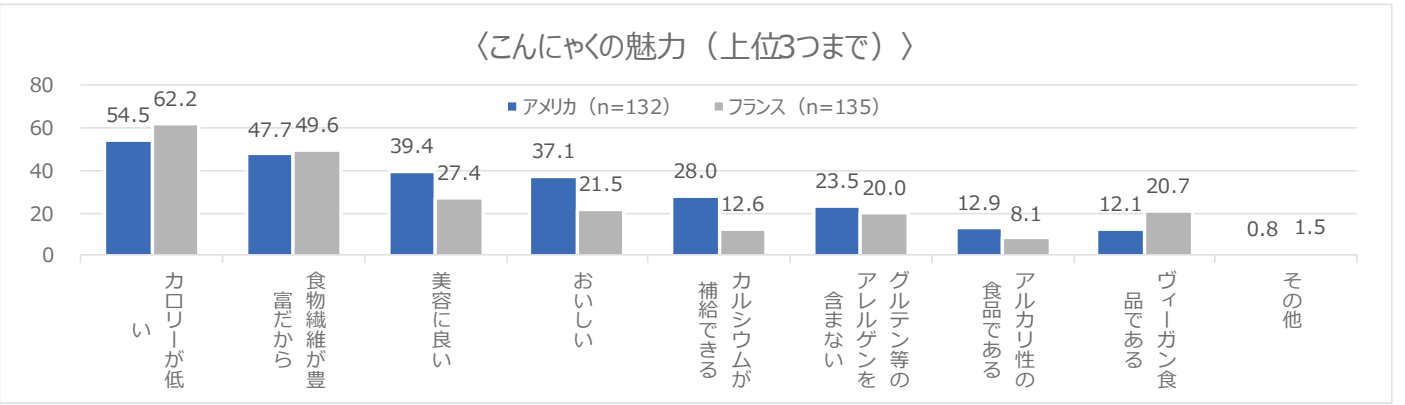


^{*4} 回答条件 アメリカ（n=114）：こんにゃく麺の喫食状況について「複数回食べたことがある」または「一度だけ食べたことがある」と回答した男女 129 名のうち、回答の得られた 114 名。

フランス（n=102）：こんにゃく麺の喫食状況について「複数回食べたことがある」または「一度だけ食べたことがある」と回答した男女 117 名のうち、回答の得られた 102 名。その他の回答条件は「調査要綱」を参照。

■低カロリーや食物繊維など、健康への貢献を期待

こんにゃくの喫食経験がある人^{*5}を対象に、こんにゃくの魅力について上位 3 つまで選択させた（複数回答）。アメリカ、フランスともに「カロリーが低い」が最も高く、続いて「食物繊維が豊富だから」、「美容に良い」と続いており、健康や美容への貢献を期待して食べている人が多いことが示唆された。



^{*5} 回答条件：こんにゃくゼリーを除く、板こんにゃく、糸こんにゃく（しらたき）、玉こんにゃく、こんにゃく麺のいずれかの喫食経験がある男女（アメリカ 132 名、フランス 135 名）、その他の回答条件は「調査要綱」を参照。

調査要綱

「アメリカ・フランスにおけるこんにゃくの消費実態調査」

一般財団法人日本こんにゃく協会では、株式会社矢野経済研究所（本社：東京都中野区 代表取締役社長：水越孝）協力のもと、以下の要領で調査を実施した。

- ・ 調査対象地域：アメリカ（西海岸地域：カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州）およびフランス（海外県を除く）
- ・ 調査対象者：20 歳以上 69 歳までの男女で、上記国・地域に居住し、アメリカまたはフランスの国籍を保有する者
- ・ 調査手法：インターネット消費者調査
- ・ 調査期間：2025 年 5 月～8 月

一般財団法人日本こんにゃく協会について

一般財団法人日本こんにゃく協会は、こんにゃくの生産の改善、流通の円滑化及び消費の拡大等の事業を行い、食生活の改善合理化に資し、あわせてこんにゃく産業全体の振興及び消費者へのこんにゃくの供給の安定を図ることを目的に平成 26 年 4 月に新たに、一般財団法人として発足した。

【事業内容】

当協会は、前項の目的を達成するため、次に掲げる事業等を行う。

1. こんにゃく（こんにゃく原料及びこんにゃく製品をいう。以下同じ。）の生産、流通及び消費状況の調査・研究の事業。
2. こんにゃくを生産、流通、加工、出荷等の計画の樹立及びその実施の指導に関する事業。
3. こんにゃくの消費の拡大に関する広報宣伝及び情報の提供に関する事業。

【所在地・連絡先、報道関係の方からのお問い合わせ先】

一般財団法人日本こんにゃく協会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1 丁目 13 番地 大手町宝栄ビル 3 階 302 号室

TEL：03-5244-5299

FAX：03-5577-4390

HP：<https://www.konnyaku.or.jp/>